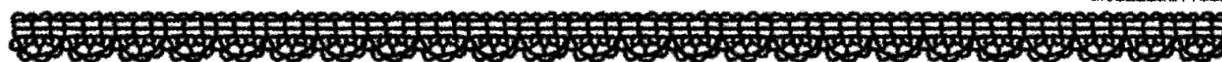


今号のピックアップ

- 1ページ ・ 第30回 大阪市立小中学校事務研究大会案内
- 2ページ ・ 第41回 政令指定都市学校事務職員研究協議会報告



第30回 大阪市立小中学校事務研究大会

「組織として考える学校教育と学校事務」

～ 共に高めあい 次代へつなげる 30回の軌跡 ～

〔 日時:令和6年9月13日(金) 13:20～
場所:大阪市教育会館 7階 なにわのみやホール 〕

13:00	13:20	14:00	15:15	15:30	17:00
受付	開会行事	研究発表	休憩	記念講演	

<研究発表>

昨年度は、「学校事務職員の専門性とその継承～財務運営から見る知識と経験の継承について～」と題し、すべての学校において学校事務職員が専門性を発揮し、適正に学校経営へ参画するために、「学校事務職員の専門性」とは何か、またそれをどのように次世代へと継承していくのかについて、研究部が取り組んだ実践を報告し、そこから見えてきた成果と今後の展望について発表を行いました。

今年度は「学校事務職員の学びと育成～資質・意欲の向上をめざして～」と題して、昨年度に引き続き人材育成やキャリア形成の観点から、共同学校事務室を活用した学校経営への組織的な参画について研究を進めてきました。また、大会当日は会員の皆様の活発な意見交流の場となるようなグループワークを行う予定にしております。グループワークでは「QRコード」を使用しますので、スマートフォンなどQRコードを読み取れる機器をご準備ください。

「子どもたちのために」という職責を果たすため、これからの大阪市の学校事務について会員の皆様と共に考えていく機会となれば幸いです。



<記念講演>

茨城大学 教育学部 教授 加藤 崇英 様を講師にお迎えし、「共同学校事務室とこれからの学校事務」と題してご講演いただきます。共同学校事務室が全市実施されてから2年目を迎えた今、共同学校事務室設置の目的を再確認し、学校事務職員の資質向上と人材育成、事務の標準化と効率化を進めるために必要なことや、学校マネジメント機能の強化を図る目的で学校事務職員が積極的かつ主体的に学校経営へ参画するために、共同学校事務室という組織においてどのような取組を行うのかなど、他都市で行われている共同学校事務室や共同実施の状況を交えながらご講演いただく予定です。

第41回 政令指定都市学校事務職員研究協議会 報告

令和6年7月29日(月)～30日(火) 万代シルバーホテル・東新潟中学校において、第41回政令指定都市学校事務職員研究協議会が開催されました。

はじめに、岡山市から第40回研究協議会の報告が行われ、全体会Iでは、各政令市から事前に提出された実態調査を基に、学校事務職員を取り巻く情勢や事務領域の諸課題、先進事例等の取組の報告を行い、その後分科会に分かれて研究協議を行いました。

第1分科会(本部)では「政令指定都市の学校事務職員の現状と今後」として、学校事務領域における諸課題の整理と今後の事務研究会の組織運営について、学校事務職員の新規採用者の育成や支援、共同学校事務室の設置・運営状況など、新たな学校事務の展望において事務研究会としての取組について協議、意見交換を行いました。

第2分科会(研究)では「学校事務職員の未来を創る調査活動について」として、政令市における学校事務研究のあり方について、中長期的な研究計画の策定や研究の実質化について協議を行いました。

第3分科会(研修)では「研究会における研修のあり方『今とこれから』』として、次世代へつなぐ効果的な研修について、各政令市で実施した実務に関する研修会の実施報告や学校事務職員の人材育成についても協議を行いました。

二日目の全体会では、各分科会で協議した内容の報告や令和7年度の研究協議会の案内が行われました。次回は、相模原市と川崎市の共催により相模原市で開催予定です。

～役員コラム Vol.1～ 『怪我の功名』

夏休みに入る直前、自身の不注意から左足の膝を骨折してしまいました。病院で医師から「膝蓋骨骨折ですね、骨がくっつくまで約一か月の間、膝は絶対に曲げないように安静にしてください」と診断された時、さまざまな思いが脳裏をよぎりました。『どうかドッキリであってほしい・・・』『なんとか騙し騙しやり過ごせないか・・・』しかし、そんな思いをよそに、医師と看護師の阿吽の呼吸で左足は手際よくギプスで固定され、治療がスタートしました。



結果、予定していた計画は変更を余儀なくされ、会う約束をしていた方々には多大な迷惑をかけることとなり、仕事のなかでも、銀行業務や荷物を運ぶときには周りの方々に手伝っていただくなど、常に周囲の方々に配慮やご助力をいただきながらの夏が始まりました。何よりも、ただただ申し訳なく、自身の左足を見つめながらケガを恨めしく思うばかりでした。しかし、皆一様に「安静にしてくださいね」「早く治ると良いですね」と、やさしい言葉をかけてくださり、皆様の温かな心遣いで膝の痛みも和らいできたところです。

私たちは普段から多くの方々とお互いに助けあいながら仕事を行っています。しかし、日常のなかでそれが当たり前になってしまっていないでしょうか。私自身、普段誰かに助けてもらっていることを軽く受け止めていないか、また、誰かのために行動する時に面倒に思っていないか等、今回のケガにより振り返るきっかけとなりました。まさに、「怪我の功名」と思いながら、早く治してこの感謝の気持ちを皆様にお返ししたいと思います。

編集後記 夏休みもあっという間に終わり、二学期が始まりました。お忙しい時期かと思いますが、皆様の研究大会のご参加を心よりお待ちしております☺(N)